

2018年9月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 9月えんだより

9月の聖句「ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。」

ルカによる福音書第19章6節

外で遊ぶ機会がとり難い暑さが続いた夏でした。自然は急に変えることはできませんが、自然を大切に作る取組みは、少しずつでも継続して実施していきたいと改めて感じました。経験したことのない暑さや豪雨等、未知の不安がつきませんし、どうしたら身を守れるのか、安全を確保できるのかを考えさせられました。人は何かの不安や恐怖を覚えますと自分を守ろうとし、何かに寄りすがりたい気持ちになるのかもしれない。

今月の聖句の「ザアカイ」という人は、税を取り立てる仕事に就き、同胞から税を取り立てる為に、嫌われただけではなく、背が低いというだけで差別にあい、虐げられたのでした。「生きるためには仕方がない・・・」彼にとっては税をとりたて、お金を稼ぎ、豪邸に住むことは、心の居場所であり、孤独や後ろめたさを解消することでもあったのです。そんな時に、イエスが来たのです。彼は人目もはばからずに、木に登り、イエスの目にとまりたい一心でありました。自分を変えたいという思いがあったのでしょうか。彼の思いを感じ取ったイエスは「今晚は、あなたの家に泊まる」と声をかけられたのでした。この子どものような行いが、彼の人生に大きな転機となりました。彼はイエスと語り、自分の心を見つめなおし、自分の財産を貧しい人々に分け与え、今までの自分の行いを償いたいと宣言したのでした。彼は、新たな自分の生き方を見つけたのです。

子ども達は、大人には価値が無いと思えるものにさえ興味津々です。この子ども達の眼差しこそ優劣や価値観や様々な違いを理由に、人間までもが選り分けられる社会には必要なのだと思います。その先には、思いもかけない新しい出会い、新しい世界があり、そこには子どもたちのような世界、つまり、誰かと衝突しても、仲違いを起こしても、赦しあい、他者のことを自分のことのように思える子ども達の純粋な心の世界があり、一緒に生きる喜び溢れる世界があるだと私は感じます。

そして、人はいつでも変わることができることを聖句は示しています。自らの心を改めて、神様の教えに耳を傾け、素直に心を傾ける時に、自らの歩みを変えることができるのだということを。

| 9月   | 乳児 (0,1,2 歳児)  | 幼児 (3,4,5 歳児)  |
|------|--|--|
| 月主題  | あそぼう   | いっしょに  |
| 月の願い | <ul style="list-style-type: none"> <li>*生活の場を広げ、いろいろな遊びを試してみる。</li> <li>*保育者や友だちと共に体を動かす喜びを感じる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>*平和を考え、願い、共に祈る。</li> <li>*友だちと共にいることを喜び、体を十分動かして遊ぶことを喜ぶ。</li> <li>*新しい発想や意欲をもって、試してみる。</li> </ul> |
| 讃美歌  | どんどこどんどこ (こども改 136)  | どんどこどんどこ (こども改 136)  |